

学 校 教 育 目 標	仲良くする子 元気な子 考える子
目 指 す 学 校 像	人生 100 年時代の土台づくりとして「世界と向き合い、ゆめをもち、エージェンシーを発揮できる子」を育成するために チームで支援する学校
重 点 目 標	1 20年後のエージェンシーを育む真の学力の育成 2 安心して活動できる居場所を保証する教育支援・相談体制・生徒指導の充実 3 地域と児童が共に元気になるコミュニティ・スクールの継続展開 4 安心・安全に教育活動を行うことのできる教育環境の整備 5 誰もが居心地のよい（Well-Being）学校をつくる教職員の資質向上と働き方改革の推進

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	＜現状と課題＞ ○昨年度の校内研究の成果により、学びの楽しさを実感できる場面が増えてきている。継続して研修等を進めていく。 ○世界や外国について興味が出てきたかという質問項目で、肯定的回答が最少の学年で 82％である。G・S が好き 74％ ○学びの楽しさを実感できない児童への支援が必要である。 ○休み時間に元気に外遊びをするかという質問項目では肯定的回答が8割を切っている。	・学ぶ楽しさを実感する探究型授業の実現とワクワクする教科横断的な教育課程の編成	①全職員が PBL 型授業、探究型授業の研究をし、管理職が計画的に授業を参観し、学びの楽しさを実感する授業改善が進んでいるか指導・評価する。 ②夢に繋がるワクワクする事業を実施（金融経済教育/天体観望会/外部講師の招致/世界に目を向ける活動等）	・学校評価児童アンケートで、好きな割合が国語 7 9％、算数 8 4％、G・S 7 6％以上となったか。（向上目標 3％） ・学校評価アンケートで将来の夢があるという項目で9 6％以上となったか。（向上目標 3％）				
		・主体的・対話的で深い学びに必要な基礎学力の向上	①全学調、市学調を全職員で分析し、より向上させるための授業改善を検討し、実践する。また、実践状況を全体で共有する。 ②朝の帯時間等で学習アプリを活用し、個別最適な学習を行う。	・学校評価保護者アンケートで基礎・基本定着、学力向上に関する項目で9 6％以上となったか。（向上目標 1％） ・タブレット PC を活用して、学習アプリを効果的に活用することができたか。				
2	＜現状と課題＞ ○いじめの早期発見、早期対応、組織対応の取組が定着してきた。 ○教育相談体制の児童保護者等への周知を積極的に行っている。 ○市学調で「自分には良い所がある」の質問に肯定的な回答をした割合は4つの学年で9 0％を超えている。前年度より改善傾向にある結果となっている。	・安心できる環境づくりと一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①生徒指導・教育相談に係る校内委員会で組織的な支援、相談を具体的に出し合い、実践する。 ②保護者に向けて懇談会やHP、各種発行物等を通していじめに関するメッセージを発信し、いじめ対応に関する方針についてさらに周知を図る。	①教職員アンケートでいじめや長欠に関する校内委員会での組織的な対応で、肯定的な回答が100％を維持できたか。 ②学校評価アンケートで保護者のいじめに関する項目が昨年度の肯定的回答（保護者 8 2％）と同程度以上となったか。				
		・自己肯定感を高める取組	①学校生活及び行事等に児童が主体的に係ることができる場面を多く設定し、成功体験を実感させる。 ②Sola る一むを必要とする児童の個別指導を充実させ、できる事を増やす。	①市学調で「自分には良い所がある」の項目で全学年が9 0％以上か。（昨年度 6 学年中 4 学年が 9 0％以上） ②Sola る一むの活用実態や居場所として効果があったか(個別案件)。				
3	＜現状と課題＞ ○学校運営協議会の熟議で、地域の教育資源である「東大宮音頭復活プロジェクト」を教育課程に位置付け、全校で取り組んでいる（5年目） ○成功体験を多く経験させ、自己肯定感を高めていく必要がある。	・児童が地域に主体的に係る支援	①C S 主導の東大宮音頭復活プロジェクトでは児童主体のプロジェクトチームを発展させ、地域の夏祭り等のイベントに積極的に運営参加できるように自治会との連携を深める。 ②S N の活動が共有できるホームページを充実させ、各団体が学校応援団として機能する。	①学校評価児童アンケートで地域の人と関わりながら生活しているかの項目で 9 5％以上維持（向上目標 1％） ②保護者アンケートでC S、S S N の認知度(昨年度 8 3％、7 8％)の肯定的評価が昨年度以上となったか。				
		・目指す児童像を地域全体で共有するための ICT の活用	①学校ブログ等ホームページによる児童の活動の様子を発信する。 ②Forms を活用し、行事に係るアンケートを実施し、PDCA サイクルに生かす。	①学校評価保護者アンケートで情報発信について肯定的回答 9 5％以上となったか。 ②保護者の意見をまとめ、校内で検討し、次の行事等に生かしているか。				
4	＜現状と課題＞ ○登下校の安全は地域ボランティアの方に協力いただいている。 ○児童自ら危険を予測したり、回避したりする力を育む必要がある。 ○施設・設備について、定期的に行っている安全点検を中心に修繕等の対応を図る必要がある。	・安全に対する意識の共有	①児童安全委員会の創設、安全教育部を中心に交通安全指導、避難訓練等を充実させる。	①学校評価保護者アンケートの安全・防災に関する項目で9 5％以上となったか。				
		・安全点検の確実な実施	①危険を察知する意識を高め、教職員が情報共有を行って、迅速に対応する。	①安全点検で発見された不具合に対してもれなく検討することができたか。また、必要に応じ担当課と協働できたか。				
5	＜現状と課題＞ ○ICT の活用や探究的な学びについて、意欲的な教員が多い。 ○業務改善が進み、Well-Being の意識が高まっている。	・教職員が自己の働き方について計画をもつことができる取組	①自己評価面談の機会を生かして長期的に目標をもつ。 ②事務室主導で給与と在校時間から時給を算出し、時間コストを意識した業務を行う。	①研修に関する具体的な目標または計画を全職員がもつことができたか。 ②時間コストを意識して働くようになった、または在校時間が減った、が9 0％以上だったか。				
		・職員にとっての同僚性・協働性を高める	①境の 1 mを意識して協力し合ったり、助け合ったりしていい職場と感じ、子どもたちのために生き生きと勤務する心構えをもつ。	①学校評価教職員アンケートで同僚性、協働性の高い職場になってきたことに関する項目で全員が肯定的回答だったか。				